

第一回 わたくし学問研究会

2025年7月16日 於京都市立芸術大学

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

アフリカ専攻5回生 前田夢子

maeda.yumeko.62z@st.kyoto-u.ac.jp



壁に絵を描く人びと セネガルのグラフィティの事例から

研究背景

- セネガル都市部の壁には、技巧に優れ、メッセージ性の強い壁画（グラフィティ）が多く存在
- 近年は空港や、大学の壁にも大規模なグラフィティが描かれている
- 上記のような場所だけでなく、街なかには多くのグラフィティが描かれている

ダカール大学文学部の校舎に描かれたグラフィティ（2022年7月，発表者撮影）



グラフィティとは？

- ラテン語のGraffito（落書き）が起源
- 都市空間にエアロゾルスプレーやペンキ等で自らの名前を拡散的にかき（writing, drawing, scratching）残していく行為、およびその文化の総称[大山 2015]
- 1960年代後半のニューヨークやフィラデルフィアで始まったとされている[大山 2015]
- ヒップホップ文化の要素の一つでもあり、1980年代ごろより急速に世界に広まっていく（ラップ、ダンス、DJ、グラフィティ）[Cedar 2009]

2. グラフィティとは



1970年代、NYで電車の車両を覆うように描かれたグラフィティ

<<https://www.sprayplanet.com/blogs/news/a-history-of-graffiti-the-60s-and-70>>



歩道の壁面に無数に描かれるグラフィティ
(2024年 パリ, 発表者撮影)



トンネル内に描かれたグラフィティ (2023年 大阪, 発表者撮影)

セネガルのグラフィティ



2023年 8 月 パーセル地区（発表者撮影）

セネガルのグラフィティの特徴

- 独立以来グラフィティが禁止されていないため、日中から集団で描くことができる[Rabine 2014]
 - 制作に時間を掛けられるため、大規模で技巧を凝らしたグラフィティが多数存在
 - グラフィティを描く前に壁の周りを清掃する
 - メッセージ性が強い（教育、衛生に関する啓蒙的イメージや、宗教的なもの）
 - 道路や公共の建物だけでなく、学校やヘルスセンターの壁にもグラフィティが描かれる
- ※通常、グラフィティの描き手はライター（Writer）と呼ばれるが、セネガルではグラフィアー（Graffeur）と呼ぶことが多い

宗教指導者像



ムリッド教団, イブラ・ファルの肖像画 (2022年7月, ダカール, 発表者撮影)



ライエン教団創始者、リマーム・ライ (2024年12月, パーセル地区, 発表者撮影)

政治、社会問題



フランス企業がセネガルを再植民地化していると揶揄（2022年8月, トンゴール地区, 発表者撮影）



近年増加している、ヨーロッパへの不法入国の際に生じる海難事故を描く（2024年4月, サリー地区, 発表者撮影）

グラフィティを描いてるようす



グラファーとこどもたち
(2023年12月, ゲジャワイ地区, 発表者撮影)



約1KMのグラフィティを描くグラファーたち
(2024年5月, プラトー地区, 発表者撮影) 9

セネガルでグラフィティが活発なのはなぜか

- 独立当初、初代大統領レオポール・セダール・サンゴール政権のもとで新都市計画の一環としてフレスコ画等が描かれた[Gueye 2016]
- 1980年代後半、構造調整策でダカール市内の医療や教育に関する予算が削減された際、地域住民が壁に教育・啓蒙的メッセージを描いた（Set Setal = be clean, make clean）[Gueye 2016]
- 1990年代以降、ヒップホップの海賊版テープやMTVなどからヒップホップ文化に触れた若者たちの中でグラフィティへの関心が増加[Rabine 2014]
- Set setalの思想とグラフィティのスタイルが融合し現在に至る[Rabine 2014]

セネガルのグラフィティに関する先行研究

- 首都ダカールに描かれる宗教指導者像が都市生活者に加護や希望を与える [Roberts 2007]
 - グラフィティが都市空間における秩序の維持や、若年層のアイデンティティの再構築に寄与 [Rabine 2014; Gueye 2016]
- グラフィティが社会に与える影響について研究はされているが、描き手の実態やグラフィティの制作過程などはほとんど扱われてこなかった

発表目的と調査手法

【発表目的】

セネガルの都市部でグラフィティを描く人びと（グラフィター）はいかなる人たちなのか、概要を説明する

【調査期間】

2022年6月～12月、2023年10月～2024年6月、2024年12月～2025年1月（合計15カ月）

【調査手法】

発表者が制作者として参与観察、聞き取り調査

調査地概要

■セネガル共和国

首都：ダカール

国面積：197,161km²

人口：約1820万人（2024, UNFPA）

言語：フランス語、ウォロフ語、
その他民族語

宗教：イスラーム（95%以上）、
キリスト教、伝統宗教

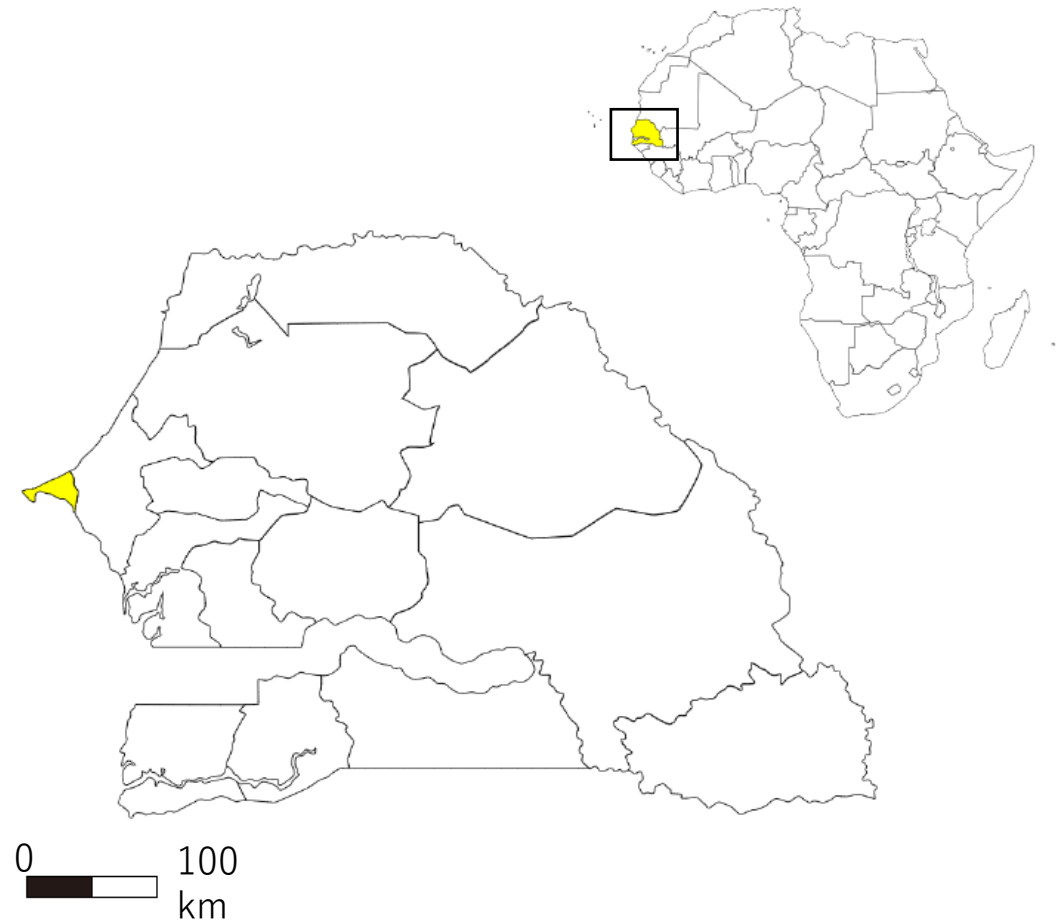


図1：セネガル共和国地図（発表者作成）

ダカール郊外で作業をするようす
(2023年11月, 発表者撮影)



どのような人たちが描いているのか

グラファーの全体像

第1世代：活動時期1990年代～

第2世代：活動時期2000年代～

第3世代：活動時期2010年代～

第4世代：活動時期2020年代～

インタビューデータと[Rabine 2014:93]をもとに発表者作成

- 2024年現在、国内には約40名のグラファーが存在し、約10のグラフィティグループがある。そのうち、8割が男性
- グラファーは、グループに所属している人、個人で活動する人に大別できる

第1世代：D氏（1975年生まれ）

- グラフィティグループDのリーダー
- グループDは古くから活動し、有名なチームの一つ
- 空港や病院に大規模なグラフィティを描く
- 企業の広告グラフィティを頻繁に描く
- 力強いアウトラインが特徴的



グループDによってブレイズ・ジャーニュ国際空港に描かれたグラフィティ（2024年4月, 発表者撮影）

いつからグラフィティを始めたか

「1988年からグラフィティを描き始めた。25年以上グラフィティを描いている。」

どのようにグラフィティを学んだか

「雑誌やCDのジャケットを見て練習し、時間があれば友人と夜中から朝の5時まで外で描いていた」

なぜグラフィティを描いているのか

「好きと言うだけでグラフィティを描き続けているわけではない。コミュニティのためにグラフィティを描いている。（中略）自分のグラフィティの描き方はまわりに共有するべきだし、グラフィティを描くときも、まずは道をきれいにする」

（2022年7月発表者とのインタビュー）

第2世代：X氏（1982年生まれ）

- グラフィティグループAのリーダー
- 国立美術学校卒業
- ダカール郊外のこどもたちに、定期的にデッサンやグラフィティのワークショップを行う



X氏のグラフィティ（2024年4月、クルマサール地区，発表者撮影）

いつからグラフィティを始めたか

「**2000年**にグラフィティを知り、その年から始めた」

どのようにグラフィティを学んだか

「自分で沢山練習した。**サイバーカフェでインターネットを使っ**
てグラフィティの歴史やテクニックについて学んだ」

なぜグラフィティを描いているのか

「**新しい世代に、自分たちがグラフィティを描くうえで使ってきた技術や経験を共有したい。**最近はすべてデジタル化しているから。自分は造形芸術家でもありグラフアーでもある。その両方のテクニックを教えるアーティストはほとんどいない。」

(2024年4月発表者とのインタビュー)

第3世代：K氏（1990年生まれ）

- グラフィティグループRのメンバー
- 平日は薬剤師として働く
- 立体的な文字と写実的なデッサンを得意とする

K氏のグラフィティ（2024年12月、パーセル地区、発表者撮影）



いつからグラフィティを始めたか

「14歳の時（2000年から）」

どのようにグラフィティを学んだか

「雑誌やインターネットを使って自分で勉強をしたが、グラフィティのイベントと接点を持たせてくれたのはグループメンバーやD氏」

なぜグラフィティを描いているのか

「自分を表現する手段。新しいものを書くたびに新しい自分を知れる」

（2024年2月発表者とのインタビュー）

第4世代：T氏（2002年生まれ）

- 女性グラフィティユニットGのメンバー
- グラファ―兼IT系専門学校 학생
- グラフィティユニットでさまざまな世代やグループと協働する



T氏のグラフィティ（2024年12月，パーセル地区，発表者撮影）

いつからグラフィティを始めたか

「2021年にグラフィティのプログラムに参加したけど、このプログラム以前はグラフィティのことを知らなかった」

どのようにグラフィティを学んだか

「プログラム期間中に初めてスプレーを使って描いた」

なぜグラフィティを描いているのか

「私にとってグラフィティはメッセージや意識向上、よいことを思い出させたり、道をきれいにすることを伝える手段。」

（前田：Sensibilisationとはどういう意味？）

人々にアフリカの歴史を意識させたり、COVIDの時のように健康に意識を向けてもらったり、女性への暴力などいろんなテーマを自分たちの作品の中で扱っている。」

（2024年6月発表者とのインタビュー）

まとめ

- セネガルでは日中から集団でグラフィティを描くことができるため、大規模で技巧に凝ったグラフィティが多数制作されている
- グラフアーは、2024年時点で第4世代まで来ている
- 世代によってグラフィティの学び方/接し方に違いがある
 - 第1世代は雑誌やCDジャケットの模倣
 - 第2、3世代はサイバーカフェの使用、第1世代のグラフアーから直接指導
 - 第4世代は先の世代が作ったイベントやワークショップ、またはスマホやSNSの使用
- グラフィティを描く理由は、趣味や自己表現の側面もあるが、技術の共有や意識向上など、社会への貢献を志向するグラフアーが多い

セネガルのグラフィティを制度内/制度外で考えてみる

- セネガルの美術シーンではファインアートは特権的
 - 国立美術大学を卒業、あるいは外国（旧宗主国であるフランス）の美術大学へ留学
- 制度外の芸術実践であった米国発のグラフィティが輸入される（1980年代後半）
- グラフアーは、国立美術大学を卒業した人もいれば、独学や徒弟制の中で絵の技術を学んだ人もいる
- 公的な美術教育制度の外側で技術を獲得したグラフアーたちがストリートでのグラフィティ制作を足掛かりに、ギャラリー展示などのファインアートと接合しようとしている

参考文献

- 大山エンリコイサム. 2015. 『アゲインスト・リテラシー: グラフィティ文化論』 LIXIL出版
- Gueye-Leduc, C. 2016. Du Set Setal au Festigraff: l'évolution murale de la ville de Dakar. *Cahiers de Narratologie*, Vol 30. < <https://journals.openedition.org/narratologie/7463>>(最終閲覧日2024年10月10日)
- Lewisohn, C. 2009. Street Art: The Graffiti Revolution, Tate publishing
- Macdonald, N. 2002. The graffiti subculture : youth, masculinity, and identity in London and New York, Palgrave Macmillan.
- Mcauliffe, C. 2012. GRAFFITI OR STREET ART? NEGOTIATING THE MORAL GEOGRAPHIES OF THE CREATIVE CITY. *Journal of Urban Affairs*. Vol 34 (2) : 189-206
- Parker, A and Khanyile, S. 2022. "Creative writing: Urban renewal, the creative city and graffiti in Johannesburg". *Social & Cultural Geography*. Vol 25(1): 158-178
- Rabine, L.W. 2014. "These Walls Belong to Everybody: The Graffiti Art Movement in Dakar." *African Studies Quarterly*. Vol 4 (3): 89-112
- Richard, L. 1988. Graffiti as Career and Ideology *American Journal of Sociology*. Vol94(2) : 229-250
- Roberts, A. F. and Roberts Nooter, M. 2007 "Mystical Graffiti and the Refabulation of Dakar", *Africa Today*. Vol 54(2):51-77



ありがとうございました